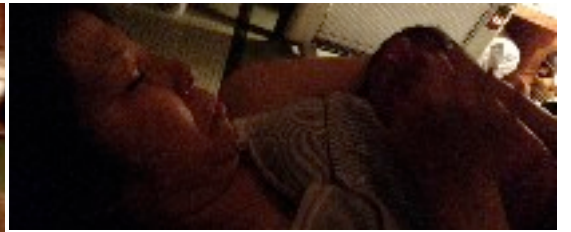


# 月刊 ELEVEN VILLAGE

2013年5月30日



Adiam condimentum Purus, in consectetur Proin in sapien. Fusce urna magna, neque eget lacus. Maecenas felis nunc, aliquam ac, consequat vitae, feugiat at, blandit vitae, euismod vel.

## お父さんになったぞーお♪

4月24日明け方3時に、新しい命が誕生したよ。名前は、蒼空(そら)君。

みなさま、こんにちは♪ELEVEN VILLAGEの寿っちゃんこと寿一です。今日は、もうみんな知ってるんだけど、4月24日の早朝3時に新しい命が誕生したことについて書くね。今回この記事にしようと思った訳は2つあってさ、1つ目は自然分娩について知って欲しいなと思ったのと、2つ目は自分たちが出産をきっかけに気付いたこと学んだことをシェアし、家族って、子どもを産むってステキやんってのを伝えたかったの。その2本立てでお送ります。なので、この月刊ELEVEN VILLAGEを読み終えた後は、幸せな気持ちいっぱいになって貰えたら嬉しいな。

さて、それではいくよー！  
まずは皆からよく聴かれること、吉村医院に決めた流れときっかけについて書くね。俺らが妊娠時に住んでいるところは、大阪市内でさ。妻の実家は、三重県津市。最初、妻は

どこで子どもを産もうか、どこで産むのがベストなのかを考えてた。住んでいる大阪市内の病院で産むのか？クリニックで産むのか？助産院で産むのか？はたまた、出産は大阪でし、出産後に里帰りする？それとも、三重にある病院で産む？クリニックで産む？助産院で産む？出産前、産後も妻の実家で過ごすのか？選択肢は、沢山ありました。そして、出産について二人でどれが一番俺らしいかを話し合ったのね。

少し話は過去に戻って、実は、、、結婚する前に、二人で愛知県岡崎市にある吉村医院の院長 吉村先生の講演会がたまたま大阪市内であったから、聴きに行ったこともあってね、その時から直感的！に自分的には、出産するなら吉村医院がいいと思ってたのね。それで出産するなら吉村医院がいい！と伝えたら、妻はビックリしてて(笑)  
そんな答えが返ってくると思わなかったと。

妻の思いも同じで、本心は吉村医院で出産したいけど、出産するにあたり、毎月大阪から愛知まで通う妊婦検診のことや、実際に陣

痛が来たときのことなど不安があり、吉村医院での出産を躊躇してたの。なので、大丈夫！結婚式の時と同じように、二人力を合わせ、お互いが今やるべきことに焦点を合わせ、吉村医院で出産しよう！と決めたの。それから、大変なこともあったけど(笑)今は、それも乗り越えることが出来て、夫婦の絆がさらに深まって良かったなと思ってるよ。それじゃ、次いくね。何故自然分娩にしたのかについて。簡単に言うと、より自然が良かったからかな。だってさ、自然の中の動物を見ると、自分の力で子どもを産んでいるでしょ。なんで人間は自分の力で子どもを産まないのかと疑問に思ったの。そこで調べていくと、実は昔は自分の力で子どもを産むのが普通だったみたい。でもね、人々の幸せを追求してく過程で、その時代は便利や効率化を追い求め、何でもがスゴく便利になった。家事一つ見ても、そうでさ、料理、洗濯、掃除と、今は機械がほとんどしてくれるけど、昔は、そうじゃ無かった。料理するにしても、火を起こす為に、薪を割るところから始まる。とっても大変だったと思う、だけ

ど、そのおかげで、人間の生命力、生きていく力ははばなくあったと思うの。しかし現在は、機械の発達のおかげで、人間の筋力が低下し、自分自身の力で産むのが困難になってきたが分かって、それと、やはり子どもを産むってのは、命がけなことなので、亡くなる方も沢山いて、それは本当悲しいことで、命を大切にす意味合いもあって、医療が発達したおかげで、出産で命を落とす方が少なくなっている現実も理解したの。でも、それも踏まえた上で、俺らの家族は、より自然に。より自分たちらしい道を。ということで、自然分娩をすることに決めたんだ。

そして、吉村医院での自然分娩どうだったかについて。感想は、自然分娩とってもとってもとっても感動的だったよ。うすぐら——い、和室での出産。そこには、布団一枚。柔らかいクッション。洗面台などがあってね、自分が今まで知っていたものと違って、最初驚いた！どーやって産むんだろ！？この和室で、産むのか。頭の中が「???」いっぱいでした(笑)妻は妊婦健診や母親学級で知っていたみたいだけど、俺は何も知らなくて、頭の中を整理するまでに、だいぶ時間がかかったよ。

しばらくしてから、なるほど！自然分娩だから、促進剤やバキュームなどの機械を使わず、人間(妻)の力で産むのか、その為に、毎日スクワットしたり、階段上り下りしたり、ウォーキングをしたり、、、と筋力と体力を付けたいのかと。マイペースな寿ちゃんでしょ(笑)

ここから激動の時間だったよ。23日早朝に妻から連絡があり、痛みが1時間おきにきている。でも、それが陣痛なのか、陣痛じゃないのかが良く分からない、と。そんなこと言われたも、俺も良く分からない(笑)

さて、どうしよう！しかし、その時の直感は、今日だと。そう、今日産まれる、と思ったの。そして、大阪から妻の実家に向かったの。だけど、そんな大事なときに、妻の実家には誰もいない、母は仕事、父は何故か潮干狩りに(笑)誰も、吉村医院までは車で送っていくことが出来ない。父曰く、明日の

明け方に産まれると。何故なら、明日は大潮。潮の満ち引きで、満潮の時には、子どもが生まれ、干潮の時には亡くなる方が多いという自然のサイクル。なので、今日は産まれないので、潮干狩りにいって来ると(笑)まあ、いいかと思って、俺は大阪から三重に向かった、そして、お昼前に三重に着いて、父も潮干狩りから帰ってくると、いよいよ！陣痛が15分おきにきてるといことで、吉村医院へいざ出発！！妻は後部座席を倒し寝て、俺はその隣で妻が辛いときはさすったりしてサポートしようと思ったんだけど、連日の仕事の疲れもあって、出発して5分もしない内に爆睡(笑)、起きたら、吉村医院でした。

そして、しばらくして分娩室へ移動し、出産までの時間は、約6時間だったんだ。その6時間は、もう一生思い出に残る時間です、だって毎分ごとの陣痛と、休憩との繰り返し。妻も、赤ちゃんも命がけで、体力、精神力を消耗してさ、妻が陣痛来るときは、ホント辛そうで、自分にも少し痛みを分けてよ、その変わり妻を楽にさせてと何回も思ったよ。心が痛かったよ。よくね、女性は男性は何も出来ないっていうよね、でも俺はそう思わないの。その言葉を聴くと、自分ごとじゃないんだけど、辛くてさ。実際に俺の場合、何も出来ない自分とは全く思わなかったよ。だってね、それは、和室分娩室では、俺はずっと妻の側にいて、背中をさすったり、近くで「大丈夫！」と何回も何回も声かけしたり、一緒に呼吸を合わせ、妻と子供にパワー？気？を送ったり、手を握って、妻がいきみやすいようにしたり、出産ペースが急激に進むと、戻すので、小さいバケツを妻の口元に持って行って、そのバケツを一回毎に洗面台で洗ったり、痛みこそ無かったものの、妻が和室分娩室に入ったときから最後の出産まで、ずっと妻をサポートし、痛みを分かち合ったり、気持ちを分かち合ったり、出産時は、喜びを共に分かち合ったり、感動を分かち合ったり、と、自分もしっかり役目があり、その役目を全うできたことが何よりの幸せだったんだ。だから、自信持って、男性も役割があるって言えるよ。って誰に言うんだろ。。。(笑)

#### Fusce ac leo

Purus, in consectetur Proin in sapien. Fusce urna magna, neque eget lacus. Maecenas felis nunc, aliquam ac, consequat vitae, feugiat at, blandit vitae, euismod vel.



1)吉村医院の外観 2)吉村医院の外観 3)和室分娩室 4)かまど 5)出産前・出産後に過ごす部屋 6)部屋の窓から眺めれる景色



“Lorem Ipsum Dolor Set  
Ahmet In Condinmentum.  
Nullam Wisi Acru Suscpit  
Consectetuer viviamus  
Lorem Ipsum Dolor Set  
Ahmet. Lorem Ipsum Dolor  
Set Ahmet In Wisi Acru  
Suscpit Consectetuer  
viviamus.”

Leo Praesen



## 家族、そして出産ってほんとステキだね♪

そんな出産だったので、夫婦の絆がより深まったんだ。それに、それだけの思いで産んだ子どもなので、そりゃ大切にするわ〜と本心から思ったよ。

吉村医院では、主産後は母子同室で、出産後も同じ部屋、同じ布団で赤ちゃんと一緒に寝ることができたんだ。産まれたばかりの子どもと一緒に寝れるのは、想像以上に幸せだったな。もう可愛くて、可愛くて仕方がない、というか、ものすごくいとおしい。例えば、自分の顔を近づけてみたり、抱っこしてみたり、おでことおでこをゴツツンしてみたり、毎日一緒に共に時間を過ごす、自分たちにとっても幸せだし、赤ちゃんにとっても、産まれた後にお父さんお母さんと一緒に過ごせるのは幸せで安心なことだと感じたよ。

最後に、いつも妻が言ってる、改めて食べ物大切さを考えたよ。何をを選び、何を口に入れるのかを、改めて考える”きっかけ”になったかな。だってさ、とっても有り難いことに、妻の身体は、妊娠後お菓子やパンを食べると、すぐに気持ち悪くなって、すぐに戻すようになったんだよ。本当に身体にとって、赤ちゃんにとって、良いもの、必要なものは

身体が吸収し。必要ないものは身体が拒否反応を示したんだ。人間の身体で不思議で、よく出来てるだね。俺らが毎日生活していく上で、現在添加物や保存料が非常に多くなってきて、すぐに、100%取らない！辞める！というのは、今の生活ではなかなか難しいと思うけど、少しずつ、出来るところから、1つずつ1つずつ、本当に身体に良いものを身体に入れて、体づくりをしていこうと思ったよ。出産は、妊娠する2年前から始まっているというから、毎日の積み重ねだね。次は、双子を授かりたいので、今から俺も準備するよ。

今回の月刊ELEVEN VILLAGEどうだった！？読んでくれるみんなとの壁を無くしたいから、敬語を使わずに書いたよ、不快な思いをした方がいたら本当スイマセン。それに、最後まで読んでくれて本当ありがとう。贅沢いうと、感想なんかも送ってもらえると嬉しいな。いっぱい来たら幸せだな。そして、次回の月刊ELEVEN VILLAGEは岡山のこと書けるかな。

ほんと最後まで読んでくれてありがとう。